



そうだったのか！ がん専門医による抗がん剤のお話

第10回

内科 診療部長 池尻文良
いけじりふみよし

【抗がん剤治療】

この連載も記念すべき10回目となります。しかし、よく考えたら一番大事なことをこれまで書き忘れていました。この連載では様々な抗がん剤の説明をしてきましたが、実際に奥出雲病院で治療ができるのか？ということをお伝えしていませんでした。**結論から言いますとリンパ腫、乳がん、肺がん、胃がん、大腸がん、膵がんなどを含んだ多くの癌の抗がん剤治療に対応できます。**ただし、残念ながら放射線治療は当院でできませんので、放射線治療と抗がん剤治療を組み合わせた治療はできませんが、それ以外はほぼ対応いたします。

出雲や松江の大きな病院に抗がん剤治療を受けに行く方も沢山いらっしゃるかと思います。前回お話ししましたが、当院には私と鈴木院長の2名が「がん薬物療法専門医」という、抗がん剤治療のエキスパート資格を持っています。(島根県には15名のみ、お隣の鳥取県はわずか8名です。)奥出雲病院は都市部の大きな病院にも引けを取らない抗がん剤治療を提供できる病院なのです。

遠方の病院に通院するだけでも最低2~3時間は時間がかかるのではないのでしょうか？その上、運転のリスクや体力の消耗など大きな負担があるかと思います。そういった悩みやお困りがあれば当院での治療も一度考えてみられてはいかがでしょうか？

自分自身は今まで一度も患者様に抗がん剤治療を強要するようなことはありませんでした。患者様と相談し、納得いただいて初めて治療を行っています。「副作用が強い治療は受けたくない」などの要望があれば、治療効果や副作用などを勘案し、患者様と一緒に治療法を決めてきました。抗がん剤治療には「標準治療」という最も治療成績が良い治療法が存在します。しかし、副作用によって続けられない患者様も沢山経験してきました。そのような経験を踏まえ、患者様と相談し、標準ではなく、患者様にとって「最適」な治療法を今後も選択していきたいと考えています。抗がん剤治療の専門家として対応いたします。

奥出雲病院でお持ちしております。



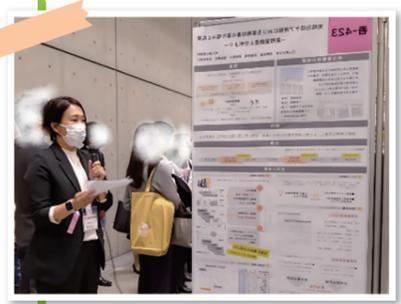
新潟県で開催された第62回全国自治体病院学会にて、当院の職員が4題のポスター発表を行いました。
本学会は全国の自治体病院が一堂に会し、医療や病院運営に関する取り組みを共有する場です。当院職員は、日々の診療支援や業務改善の取り組みをもとに発表しました。
また、他の病院による多様な取り組みに触れ、新たな視点や知見を得ることができ、今後の活動に役立てることができ、貴重な機会となりました。

「認知症者の退院支援」
「安心して地域で生活するため」
「行った関わり」
小林 絵美 看護師
入院された認知症者に対し、統一した支援を実施。院内デイケアや家族指導を通じて安心感



発表テーマ
「訪問診療とショートステイを利用した在宅生活を継続し得たパーキンソン病患者の1例」
岡 正登詩 医師
パーキンソン病患者本人の希望を尊重しつつ、家族負担を軽減した地域包括ケアの有効性を示す事例を発表しました。

「地域包括ケア病棟における業務改善の取り組みと成果」
「業務量調査と分析より」
三澤 はる香 看護師
業務改善チームを発足し、記録効率化や手順見直しにより時間を短縮、患者さんと関わる時間を確保した成果を発表しました。



を提供し、退院後もデイサービスや穩やかに利用できる環境を整えた事例を発表しました。



今回の発表は、当院が地域医療の発展と患者さんに寄り添ったケアの実現に向けて日々努力していることを示すものです。今後も引き続き、医療の質の向上と地域社会に貢献できる病院づくりを行ってまいります。



「KPI測定やIoT等を活用した総合評価による公立病院職員のモチベーション維持のための経営改善」
池田 雅美 事務員
病院職員のモチベーションを維持させつつ、診療稼動額を向上させた経営改善の取り組みについて発表しました。